

# 令和7年度学校経営報告

東京都立府中工科高等学校  
校長 高野 学

## 1 今年度目標達成に向けた取組みの成果と課題

### (1) 概要

今年度、入試応募倍率 1.1 倍を目標に教育活動の改善に取り組んできた。学力選抜試験の応募倍率は 0.95 倍で目標を実現することはできなかったが、目標に向け取り組んできた教育活動の改善は着実に進展した。

都知事の年頭のあいさつで、「AI に代替がきかない技術職人材の育成は東京都の使命であり、使命を果たすため工科高校はとても重要な場所である。」という考え方が述べられた。次年度以降も、本校への社会からの期待はますます高まると予想される。また、ホワイトカラーからブルーカラーへ社会の風潮が変わりつつある今、工科高校への中学生や保護者の関心が高まることも期待される。学校は、社会インフラを支える有為な技術者を一人でも多く育てることを目指し、引き続き教育活動の改善に努め、真に生徒の力を伸ばす教育、生徒の可能性を広げる教育を推進していく。

### (2) 今年度における取組目標

工科高校改革を進展させ、生徒の力を真に伸ばし、中学生や広く都民から魅力ある工科高校として認知されることを目指す。

### (3) 達成に向けた具体的方策の成果と課題

具体的方策	成果と課題
ア 学習指導	
①新学習指導要領に基づいた各教科シラバスを作成し、「AL的手法」「ルーブリックを活用した評価」を行い、指導と評価が一体化した授業を実践する。	授業のねらいを冒頭に明示し、最後に振り返りを行う授業展開を、ほぼすべての授業で実践した。3 観点による評価のうち授業に臨む姿勢の評価を、適切に指導に結び付けることが課題である。
②PBLを授業に積極的に導入し、生徒の探究する力、学び続ける力を育成する。	高電圧実習装置、情報系総合実習装置を導入。国家資格取得に向けた実践的な授業、最先端技術を駆使した体験型・課題解決型の授業を行なうことができるようになった。今年度実施できなかった金沢工大との連携事業を次年度は継続して行う予定。
③一人一台端末を有効に活用し、効果的・効率的な授業を展開する。	ほぼすべての授業で端末を活用した授業を行った。生徒の端末活用能力は向上したが機器取扱いに関するトラブルは横ばい。
④少人数指導を生かし、一人一人に寄り添った個別最適な学びを実現する。	国語科、数学科、英語科、家庭科、体育科および専門教科で、少人数授業を実施した。
⑤情報技術科 P-TECH 事業を有効に活用し、高度な情報技術に触れる機会を設けたり、情報技術者と交流する機会を設けたりして情報技術者の育成を目指す。	企業・専門学校と連携しメンタリングや企業・学校訪問を行った。P-TECH クラス 3 年生 30 名中 28 名が情報関連の上級学校へ進学した。
⑥工業情報数理を核に情報教育を充実させ、すべての科において IT パスポートの取得を目指す。	科目「工業情報数理」のねらいを「国家資格 IT パスポート試験に対応できる力をつける」としてシラバスを策定。機械科、工業技術科、電気科の 1 年生で授業を行った。今後 2 年生での指導の継続及び IT パスポート試験全員受験が課題である。
⑦第 2 種電気工事士について、電気科中心に他科の生徒にも学習機会を設け、学校全体で取得を目指す。	第 2 種電気工事士合格者 69 名で例年に比べ減少。第 1 種電気工事士合格者 26 名と倍増。ジュニアマイスター顕彰特別表彰 10 名、ゴールド 5 名、シルバー 19 名、ブロンズに 27 名を輩出。

⑧英語教育の充実を目指し、令和8年度生からカリキュラムを見直す。	今年度から外国人講師3名体制、ほぼ全ての授業でネイティブスピーカーと対話する時間が確保された 令和8年度から英語授業時数を2時間増やし、令和9年度は英語科教員を1名増やす。
⑨専門教科科目との関連性を考慮し、令和8年度生から理科科目の配置を見直す。	令和8年度生から、物理基礎1年生、化学基礎2年生、科学と人間生活3年生とする。令和8年度から理科専任教員を1名増やす。
イ 進路指導	
①「進路の手引き」を使い3年間を見通した系統的な就職指導、進学指導を行う。	次年度に向けて手引きの全面改訂を行った。学年ごとに行われていた進路ガイダンスや企業・上級学校訪問などキャリアデザインに関わる活動を一冊にまとめ、学校全体で統一感をもたせ見直しをもって取り組む指導体制を作った。
②外部学力診断テストおよび分析会を行い、生徒の能力や適性を把握し、一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。	就職希望者および進学希望者を学びに向かわせることを狙いとして1年生から全国基礎学力テストを導入した。今後進路部主導で3年間計画的、組織的に実施する。職業に応じて資格取得を体系化し、進路指導の質を高めることが課題である。
③進路実現に向けて、論文指導および面接指導を学校全体で組織的に行う。	特に論文指導の在り方を見直し、進路部主導で学校全体での組織的な取り組みとすることが、次年度に向けての課題。
④インターンシップを2年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。	3日間で実施。企業会社への事後アンケートでは本校の生徒への評価が高く、生徒の事後アンケートではほとんどの生徒が、有意義であったと記した。次年度も同様の形式で実施する。
⑤総合型大学入試を目指した進路指導計画を立て、生徒に目標を持たせ、1年生から授業や学校行事、部活動等への取り組みの充実を促す。	令和8年度進路の手引きを全面改訂した。増える進学希望者に対応する内容を新たに落とし込んだ。次年度以降、1年生の春から進路指導計画に基づいた指導を、進路部主導で組織的に行う。
⑥求人票管理システムを導入し、管理業務の自動化・省力化を図る。	求人票管理システムを導入したことで、求人票の管理業務は半減した。
ウ 生活指導	
①朝の立ち番指導を行い、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。	生活指導部による朝の立ち番指導を通年行った。時代の変化とともに頭髪指導の在り方を見直す必要がある。自転車ヘルメットの所持率はほぼ100%だが着用率は50%程度で課題がある。
②保護者との連携を図り、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の改善に向けた指導を行う。	遅刻は特定の生徒に偏っている。今後、一層学校と家庭との連携を密にし、指導を継続する。
③「いじめ防止基本方針」等に基づきいじめ暴力は絶対にしない許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催し、いじめ未然防止に向けた取組や早期発見の情報共有を図る。	今年度はいじめに関する報告は1件。他者とのコミュニケーションに課題のある生徒は少なからずいる。スクールカウンセラーと教科担任そしてクラス担任との連携体制を構築し、丁寧な指導に当たる。
④授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。	今年度は、セーフティ教室を12月、交通安全教室を3月に行なったが、次年度から、情報モラル指導および交通安全指導は年度当初に行い事故の未然防止を図る。
⑤各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。	避難訓練を年に4回、防災訓練を1回行った。 次年度以降、上級救命講習を年間行事計画に入れ総務部主導で2年生において実施する。

エ 特別活動・部活動指導	
①部活動・特別活動および体育の授業において、心身の健康、体力の向上を目指す。	修学旅行、体育祭、文化祭等は、ほぼ例年通りの内容で行うことができた。マラソン大会は雪の影響で中止。
②文化スポーツ特別推薦を活用し、部活動に対する意欲のある生徒の入学を促す。	文化スポーツ特別推薦を実施。卓球部1名(0.5倍)、野球部16名(2.29倍)の応募があった。
③部活動指導方針に基づき、生徒が主体的に取り組み活躍する機会を作り出す。	部活動加入率は70.3%と昨年を下回った。資格取得同好会加入者の減が影響している。
④「2020オリンピック・パラリンピック教育レガシー」実施方針に基づき、日本の伝統文化の理解や国際感覚を養う等、国際理解教育の充実を図る。	笑顔プロジェクトによる音楽公演を校内で行った。次年度以降も笑顔プロジェクトを活用し、文化芸術に触れる行事を行う。
⑤行事や集会等における校歌斉唱、地域への貢献や奉仕活動等などの取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。	年間通じて式典行事では校歌を斉唱した。 自動車整備部、鉄道研究部、硬式野球部、生徒会が近隣の小学校や特別支援学校、地域の方々との交流活動を行った。野球部が地域清掃活動、地域祭りボランティアを行った。
オ 保健指導	
①スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを図り、自殺対策に資する教育の推進、発達障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。	特別支援教育および教育相談に関する委員会を年14回開催した。生徒情報が共有されSCとの連携を含め、丁寧な指導につなげることができた。
②感染症対策を施し環境整備に努め清掃活動を徹底し清潔で明るい学習環境をつくる。	手の消毒液は引き続き昇降口等に常備した。11月12月に2度インフルエンザ流行により学級閉鎖を行った。
③特別教育支援コーディネータを中心とした教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し中途退学者の減少を目指す。	コンディションレポートの活用が進み、生徒の声を聞き逃さない体制づくりが進んだ。中途退学者は5名で昨年と同数だった。
カ 募集・広報活動	
①学校案内パンフレットの作成およびHPのリニューアルを行う。	内容を改定した学校案内パンフレットを、教員による中学校訪問または郵送等で各中学校へ配布した。
②中学校訪問および生徒による母校訪問、見学会・説明会・体験授業・体験入部を実施する。	夏の見学会(4回)参加数328組、秋の説明会(4回)参加数214組。昨年を若干下回った。
③校舎前面に懸垂幕の設置、校門横の掲示板の有効活用を図る。	懸垂幕には1本ののぼりを掲示。掲示板には学校案内パンフレットを掲示した。
④近隣中学校や地域との交流を行う。	卓球部、野球部、情報技術部、自動車整備部が年2回の体験入部を実施した。
キ 学校経営・組織体制	
①デジタル技術を活用しDXを進め業務の質を高めるとともに、ICT環境を最大限活用して生徒の学びを保障する。	庶務事務システム、校務支援システム、採点システムの運用を促す校内研修を実施。
②日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土の醸成を図る。	定期的に管理職による事故防止研修を実施。適宜、注意喚起を行い事故防止に努めた。定期考査後各教科内での成績処理相互点検を実施し、成績処理ミスの防止に努めた。

③体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしない、させない、許さない校内風土の醸成を図る。	教職員の体罰不適切な行為に関する意識は高い。教職員は定期的な研修等で認識を深め、体罰はしないさせない職場環境が構築されている。
④管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。職員会議の上限時間を1時間以内とする。	部活動指導が原因で80時間越え超過勤務者が数名いる。部活動指導等の業務が一部の教員に偏らないための工夫が必要である。
⑤防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携し実践的な防災教育を推進する。	防災委員会を年2回実施。地域防災課職員、消防署職員の方から知見をいただき防災教育の在り方を見直した。

### (3) 数値目標と達成度

項目	数値目標	昨年数値	令和7年度
就職内定率	100%	100%	100%
進学決定率	100%	100%	97%
資格取得者数 機械検査三級	25名	10名	19名
第二種電気工事士	100名	82名	69名
第一種電気工事士	20名	12名	26名
ITパスポート	5名	0名	1名
部活動加入率	85%	95.1%	70.3%
いじめ・体罰件数	0件	1件	1件
ホームページ閲覧数	20万	42万	48万
学校説明会参加者数	900人	1200名	1150人
入学者選抜応募倍率 推薦選抜	1.5倍	1.63倍	1.60倍
学力選抜	1.1倍	1.1倍	0.95倍
中途退学者数	5人	8人	5人
特別支援教育・教育相談に関する委員会開催回数	10回	9回	14
学校満足度(学校評価アンケート) 生徒	85%	80%	82.1%
保護者	90%	93%	93.5%
勤務時間外の在校時間 月45時間超延べ人数	20人	43人	25人